



2022年3月発行

2021年7月、京都気候変動適応センターが誕生しました！

ここ数年、気候変動への懸念が世界的に高まっています。地球温暖化を一因とする記録的な猛暑や豪雨が多発しており、この気候変動の影響による生活や健康・財産、事業活動への被害を回避・最小化するための対策（適応策）に取り組む必要があります。日本でも2018年、気候変動適応法が制定されました。この法律に基づいて、全国の自治体で地域気候変動適応センターが設置されています。

京都気候変動適応センターは、地域における気候変動影響及び気候変動適応に関する情報の収集、整理、分析及び提供並びに技術的助言を行う拠点として、京都府、京都市、総合地球環境学研究所（地球研）の共同で2021年7月に始動しました。

- ▶ 京都気候変動適応センターのホームページへは、kccac.jpで検索！またはQRコードで。

kccac.jp



京都気候変動適応センター
Kyoto Climate Change Adaptation Center

Kyoto Climate Change Adaptation Center

京都気候変動適応センターは気候変動影響や適応策に関する情報収集・発信拠点です

News

2022.01.31 京都でいま、何が起きているのか？－京都における気候変動影響とその対応に向けて－<イベント終了>
2021.12.16 小冊子ページを公開しました。

お知らせ一覧へ >

京都という長い文化・歴史をもった地域から

社会と文化のあり方を考え、

気候変動問題を探っていくことが、

京都気候変動適応センターのミッションと考えています。

Learn
気候変動について学ぼう

詳しくはこちら >

京都気候変動適応センター
Kyoto Climate Change Adaptation Center

2021年7月14日、京都府、京都市及び総合地球環境学研究所は、同日付で締結した「京都気候変動適応センター設置に関する協定」のもと、地域の自然と社会の状況に応じた気候変動適応の推進に資するため、「京都気候変動適応センター」を地球研に設置しました。

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
総合地球環境学研究所

詳しくはこちら >

京都府

京都市

ホームページの内容を紹介します

府民・事業者・自治体関係者のみなさまの多様なニーズに応じた情報を発信していきます。

センター長あいさつ



代表 安成 哲三(京都気候変動適応センター長)

今、私たちには、人類文明がひき起こした気候変動と環境変動により「人新世」という地球史の新たな歴史を作っているといわれています。その中で、私たち人類自身がどう立ち向かうべきかが問われています。この問題は、地球社会全体で考えるべきであると同時に、私たちが現実に住んでいる土地、地域で考えいかねばなりません。問題の解決は、単に地球全体でCO₂を抑制すればいいという問題だけではなく、私たちが身近な自然で、かつ長い歴史と文化を持った地域社会の中で、どのような新しい社会がありえるかを、同時に考えていく必要があります。京都府・京都市は、下図にあるような「適応策」における5つの取組の視点を提案していますが、その真ん中に位置づけている「京都ならではの対策」はとても大切です。気候変動の緩和と適応の「両立」の視点も、不可欠であり、この総合的解決(シナジー)なしに、気候変動問題の解決はありません。京都という長い文化・歴史をもった地域だからこそ、変動する気候と自然の中であるべき社会と文化の視座と知恵を学ぶことができます。すでに顕在化しつつある気候変動の影響に向き合いつつ、人と自然が共生できる持続可能な社会へ向けた適応策を探っていくことが、京都気候変動適応センターのミッションと考えています。

適応策の5つの視点

長期的な視点

影響が顕在化してからでは対応に係る費用等が莫大になるため、影響の及ぶ範囲や対象の時間的・空間的な広がりを考慮した対策を実施します。

幅広く対象を想定

影響を受ける対象・度合いは多様であるため、その範囲を幅広く捉え、高齢者などの適応弱者を含め、各主体の状況に応じた柔軟な対策を実施します。

京都ならではの対策

歴史、先人の知恵、生活文化を活用した、京都が率先して取り組むべき分野に重点的に取り組みます。

同時解決

緩和策との両立に加え、各施策へ適応の視点を組み込むことで、政策の融合による同時解決を図り、シナジー効果を創出します。

ビジネスにつなげる

適応策に関わる分野は多岐に渡ることから、行政主体の対策はもとより、自立的な対策につながるビジネススペースの対策を促進します。

気候変動について学ぼう

1 気候変動ってなに?
[詳しく見る](#)

2 気候変動で私たちの暮らしはどう変わるもの?
[詳しく見る](#)

3 京都でも気候変動の影響があるの?
[詳しく見る](#)

4 私たちは気候変動にどう対処していくべきなの?
[詳しく見る](#)

5 京都における適応策の推進に向けて
[詳しく見る](#)

中高生向きのわかりやすい解説も…

地球が温かくなるのは、CO₂が増えているせいなんだね。



地球温暖化の原因になる気体を、温室効果ガスという。温室効果ガスにはCO₂の他にもいくつあるんじゅが、一番影響が大きいのがCO₂で、石油や石炭などを燃やした時に出てくるんじゅ。人間は長いこと、重油やガスや重のエネルギー源を石油や石炭に頼ってきたから、大気中のCO₂が増えたんじゅよ。



▶ 今後の更新にご期待ください！

2021年度は府内約40箇所にヒアリング調査を行いました

京都で生じている、自然生態系、農林水産業、文化・伝統・観光分野における気候変動の影響を把握するため、高等学校、農林水産業や伝統・工芸・寺社・庭園に関わる方々に、普段感じている気候変動影響やその対策、今後不安に思っていること等についてヒアリング調査を行いました。

ヒアリング先、質問項目

▶ 高等学校（右図⑯～㉕）

<主な質問項目>

- ・自然生態系に関する事項
- ・日常生活で感じる気候変動影響

▶ 農林水産業関係機関（右図①～⑮）

<主な質問項目>

- ・生産物への影響（品質低下等）
- ・作業への影響（熱中症等）
- ・生産基盤への影響（ハウスの倒壊等）

▶ 伝統・工芸・寺社・庭園（右図㉖～㉔）

<主な質問項目>

- ・気候変動影響を感じているか
- ・対策を講じているか
- ・将来への懸念はあるか



たくさんの人から話を聞いたんだね

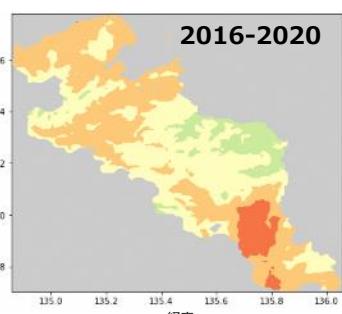
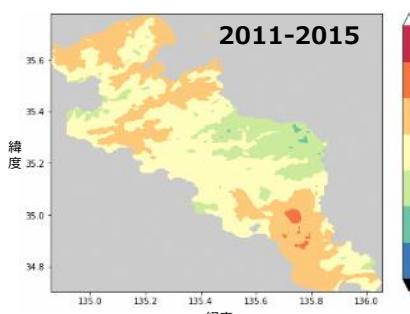


そうじゃよ。非常に多くのことがわかったんじゃ。ありがたいのう。
わかったことの一部を紹介していくぞ。

明らかになったこと①

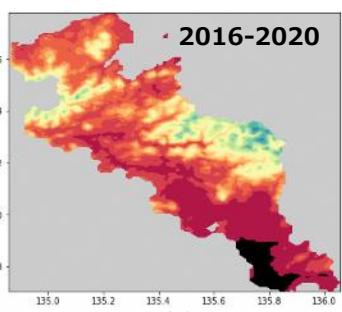
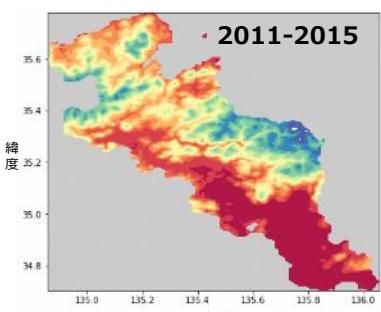
過去5～10年にかけて気候の変化を感じている人が多かった

▶ 年平均気温のデータを用いて2010年代前半と後半の違いを分析



年平均気温の上昇
を確認

▶ 年平均積雪深5cm以上の日数を用いて2010年代前半と後半の違いを分析



年平均積雪深5cm
以上の日数の減少
を確認

明らかになったこと②

都市部と山間部が隣接することから、シカなどによる獣害の被害に関する声が多く聞かれた



倒木・土砂災害等の自然災害の誘発

温暖化による積雪の減少



冬期のシカ等による自然植生への食害

下草の有無により土砂が流れる率が全然違う…
<善峯寺>



温暖化に伴う豪雨の増加

森林荒廃に伴う森林生態系劣化

シカは腹部に雪がつくのをきらって漆の生育地には入ってこなかつたが、積雪量が減つて入ってくるようになった
<京都市産業技術研究所>

森林及び土壌の弱体化



温暖化・極端気象（豪雨、台風による強風など）と自然災害、獣害、森林生態系劣化の連鎖的関係の可能性

2022年2月、オンラインシンポジウムを開催しました！



国立環境研究所の高橋潔氏から「気候変動影響と適応に関する科学的知見」として、気候変動の影響は地域特性により異なり、地域気候変動適応センターの役割は多様であることなどについてご講演いただきました。京都気候変動適応センター長からは農業への影響の顕在化や京都ならではの気候変動影響など、2021年度のヒアリング調査で分かったことについて報告しました。その後、5名のパネリストで京都における気候変動影響と適応に関する課題について活発に議論しました。

これからもみなさまに多くの情報を発信し、双方向型のイベントも含めて活動を継続します！

シンポジウム当日の様子をホームページでご覧いただけます

発行元：京都気候変動適応センター

〒603-8047 京都府京都市北区上賀茂本山457番地4
総合地球環境学研究所内

代表者：安成 哲三（京都気候変動適応センター長）

お問い合わせ・連絡先：contact@kccac.jp

(2022年3月発行)